

# おおた社会福祉士会会報

第70号  
2013年7月24日発行

発行：おおた社会福祉士会事務局

責任者：田端千英

連絡先：〒146-0082 東京都大田区池上7-13-14

電話・FAX 03-6410-6051

E-MAIL otachikukai@gmail.com



(メール配信への切り替えをご希望される方は、「お名前」と「メール配信希望」の旨をこちらまでお願いします。)

## 6月定例会報告

### 『権利擁護』チームの3ヶ年活動方針

高野 仁

今年度、おおた社会福祉士会には「権利擁護」「ケアマネジメント」「地域福祉」の3つのチームが立ち上がりました。そして毎月の定例会において、3チームが輪番で話題提起を行うことになりました。6月はその第1回目で、「権利擁護チーム」の担当でした。チームリーダーの吉田悠吾さん(株式会社アイシーズ)のチーム紹介に続き、チーム会で議論してきた3つの活動方針が、それぞれの分野に詳しい会員から発表されました。

骨子は以下の通りです。



6月定例会。消費者生活センター 第6集会室。

1、 成年後見についての取り組み＝吉田悠吾さんより

- ・社会福祉協議会「後見センター」や他の士業との連携を図る。
- ・成年後見を受託している(予定している)会員に対するアンケート調査を行う。等

2、 障害者の権利について＝岡田あい子さん(独立型社会福祉士)より

- ・「大田区権利条約を作ってしまう会」との連携を図る。等

3、 未成年後見について＝森永真理子さん(元：児童養護施設相談員)より

- ・児童養護施設出身者など、若年者支援を考える。等

フロアからは、「具体的には何ができるのか?」という質問が続きました。これに対しては、チームが立ち上がったばかりで具体化は今後の課題、各機関との接触などの「環境作り」が目標とのことでした。一方、児童養護施設の見学が予定されているなど、行動も着々と進められています。

また、未成年後見といった当会にとって新しいテーマに、期待の声も有りました。一方で、広く学習するだけでなく、社会福祉士会が関与できる具体的なターゲットを精査し、アクションにつなげるべきだとの意見も出されました。

最後に、「虐待」に関する問題提起が有りました。いわゆる「困難ケース」ですが、解決のための枠組みが整備不足で、私たちの仕事を複雑にしています。現状ではテーマを絞り込まざるを得ないとはいえ、重要な問題です。これについては、チームのサポーターである中村一孝さん（独立型社会福祉士）より、「マニュアル」といった形を残せたらよいと思うとのお話しが有りました。



定例会後の懇親会の様子。

最近はおっぱら区役所前のさくら水産です♪

以上、どうすればアクションにつながるのか。それが3チーム共通の課題のようです。しかし、今までよりも充実した活動が展開され、具体的な成果物が生まれる可能性を感じられた会でした。多くの会員が、定例会あるいはチームの活動に参加して下さることを期待します。

## 7月定例会報告 『地域福祉』チームの活動方針 「行動ありき」 生駒 友一

7月17日(水)19時から20時半まで、消費者生活センター2階第6集会室において開催されました。7月定例会の担当は地域福祉チームで、6月10日(月)にさわやかサポート久が原(地域包括支援センター久が原)で開催された第1回地域福祉チーム勉強会、7月10日(水)に多摩川芙蓉ハイツ(大田区多摩川2-24-62)で開催された第2回地域福祉チーム勉強会を受けての発表となりました。

(※地域福祉チームメンバーの発言を一部引用することで、議事録とさせていただきます。)



多摩川芙蓉ハイツ

竹本「シニアクラブ発足5年目にして声かけ・見守り・

お手伝い、『1人ひとりの人にどのようにみんなの関心を集めていくか』という作業に現在7人のチームで取り組み始めていて、当初からの目的であったこの活動に今後は力を入れていく。かつての『ムラ』(村落共同体)にあったような、言わず語らずとも何となくみんなが温かい目で見ている。シニアクラブの活動を核として、そのような自然で自発的な関係性を今後3~4年で再構築することを目指す。」

山田「地域福祉チームは、実際の仕事場所・活動場所で議論する。2度の現場での議論を踏まえ、地域福祉と社会福祉士のかかわりを方針化すると次のようなものになるのではないかな。」

社会福祉士は、『地域包括支援センター』を理解し、かかわりをつよめること。社会福祉士は、『地域包括支援センター』を地域住民組織の中に浸透させることに協力すること。社会福祉士は、地域住民組織にかかわりをもつこと。

社会福祉士は、集合住宅における地域福祉活動の推進に関心を払うこと。社会福祉士は、地域住民組織の一員として、地域福祉活動推進の一翼を担うこと。

地域福祉チームは今後も現場に出て、現場の声でもって議論を重ねて、それを地域福祉チームとして方針化する。それをおおた社会福祉士会全体で共有するような方向付けを考えている。これまではやや高齢者に特化してきたが、今後は障害・児童の分野も「地域」の視点から議論を重ね新たな方針を出していく。」

高橋「この5月に社会福祉士として『地域』デビューしました。

サラリーマンとして30~40年過ごしてきた団塊の世代が『地域』に対してどのような意識を持っているのか。そのような団塊の世代の意識や感覚を汲み取ってアプローチしていくことが、地域福祉の活動を行っていくうえで大切ではないか。

安否確認や見守り活動に民間事業者が参入してきている。社会福祉のなかに、こうした民間事業者の新しく多様なかかわり方を組み入れていくことを検討してもいいのではないか。」



第2回地域福祉チーム勉強会会場

竹本「地域福祉チームとして、おおた社会福祉士会として、基本的には行動ありきだろう。まずは地域のニーズを見つける。そして、そのニーズのなかからいくつか選んで『われわれでトライさせてくれませんか?』と持ちかけてみる。おおた社会福祉士会のなかには各分野の専門家がいるのだから、実際に取り組みをしてみる。その過程においていくつか上手く流れだしていけば、地域福祉チームとして、おおた社会福祉士会として請負チームのようなものができていくだろう。たとえば、地域コミュニティづくり。地域における高齢者対策の意識づけ、組織づくりを支援する。地域住民を巻き込んで、地域住民自らが主体的に活動していける、そんな応援団を組織できるように支援をしていく。」

## リレーエッセイ

### 「思い入れ」の地域

笹生 崇

私が30歳で福祉業界への転職を志し、平成16年に社会福祉士の資格を取得して初めて就職したのは世田谷区下馬のデイサービスでした。就職当初は「2、3年位やってみよう・・・」程度のものでした。そこで介護技術と福祉職としての基礎を身に付けて、各福祉分野を渡り歩いてみよう、、、、みたいなことを考えていたのではなかったか、と今になってみれば思うのですが、結局そのデイサービスに在籍したのは約5年にわたりました。生活相談員として3年、管理者として2年間、この5年間に様々な出来事があり、多くの困難にも直面しました。慢性的な人員不足、感染症の蔓延、支援困難事例への対応、そしてスタッフ間のトラブル、、、、半年以上にわたる週6日勤務、再終電車ギリギリまでの残業と、私自身ストレスで心身の変



調を来たし、時には路上で吐血して自ら救急車を呼ぶこともありました。そんななか、私の支えになっていたのは、苦楽を共にしたスタッフの存在と、変わらず利用者として来所される地域の高齢者と、そして何よりもその地域への強い「思い入れ」でした。

5年間勤務した世田谷区下馬という地域は私の住む大田区南六郷から公共の交通機関を利用して約1時間弱の距離にあり、決して遠方ではないものの就職して初めて足を踏み入れた地域でした。当然初めの頃は戸惑いがありました。デイサービスで相談員としてある程度責任ある立場にいる以上、送迎のルートを知る必要もあり、また各関係機関（公的機関、居宅支援事業所等々）の所在も覚えなくてはならず、業務終了後に自転車を走らせることもありました。しかしそうした努力の成果からか、5年間のなかでそれぞれの場所が、それぞれの人達の記憶にリンクしていくようになり、この下馬が自分の「思い入れの地域」に変わっていききました。人にはそれぞれ「帰りたい場所」があると思います。（生まれ育った土地、母校など、、、でしょうか）私が世田谷区下馬を離れてから4年が過ぎましたが今でも半年に1回程度、何の用があるわけでもなく、かの地を訪れては自転車（三軒茶屋駅のレンタルサイクルを利用して）走らせています。当初はたいへんな思いをして覚えた送迎ルートを不思議と体が覚えていることに、自分のことながら驚きます。時にはデイサービスを訪ねたりすることもあります。そのなかでは懐かしい人たちとの再会を喜び合うことも出来ます。（思わぬ訃報を聞くこともあります。）それぞれの風景がそれぞれの人たちへ、それぞれの出来事へつながっていく、、、そんな感覚をいつも覚えるのです。

今は離れてしまった地域ではありますが、変わらずそのままであって欲しいと、そして時々帰れる場所であって欲しいと、身勝手に思っています。以前武田鉄矢氏がTVの討論番組で若者たちにこう訴えていたのが強く印象に残っています。

「今の自分を励ましてやれるのは過去の（頑張っていた）自分だけだぜ！」と。

世田谷区下馬、、、これからも長く私自身を励ましてくれる「思い入れの地域」です。

## 8月定例会のお知らせ

ケアマネジメントチームは、三医師会の在宅医療連携調整窓口MSW、ぱあとなあ東京会員(成年後見受任者)、介護支援専門員、障害者施設指導員等の職に携わる社会福祉士で構成されており、障害者に対する理解を深めるための研修や啓発を行う事業を計画しております。

平成25年4月、障害者自立支援法から障害者総合支援法に改正され、三障害に難病も加わりました。高齢者分野である介護保険制度との関係性や、医療 費助成等の知識を深め総合的な相談支援ができるように、第1回目は「障害福祉のあらましと今後について」というテーマで大田区福祉部障害者福祉課の担当者より、ご講義いただきます。

是非ご参加ください。

日時：2013年8月21日(水) 19:00～20:30

場所：大田区消費者生活センター2階 第6集会室

参加者：30名(予定)

- 内容：1. 障害者総合支援法改正について
- ・難病が追加された障害者の範囲
  - ・障害程度区分から障害支援区分への変更
  - ・重度訪問介護の対象拡大
  - ・ケアホームのグループホームへの一元化
  - ・障害程度区分の認定を含めた支給決定の在り方
2. 高齢の障害者に対する支援の在り方
- ・介護保険制度との関係性
3. 各手当と医療費助成
4. 大田区内の指定特定相談支援事業所と福祉サービスの現状

## 準会員制を導入しました！

おおた社会福祉士会ではこの度、準会員制度を創設いたしました。

日本社会福祉士会および東京社会福祉士会(都道府県社会福祉士会)の会員で、おおた社会福祉士会に所属する会員を正会員。正会員の資格は有しないが、継続しておおた社会福祉士会の活動に参加してくださる方を準会員として登録させていただくことにいたしました。

準会員への登録を希望される方は、定例会の際に受付で申し込みをお願いします。年会費は1,000円で、会報の発行、おおた社会福祉士会メーリングリストへの加入、所属希望チーム(権利擁護・地域福祉・ケアマネジメント)メーリングリストへの加入などの特典をご利用いただけます。

なお、これまで通りおおた社会福祉士会主催のイベント(定例会・公開講座など)は、正会員・準会員に限らずどなたでも参加できます。

お問い合わせ先：おおた社会福祉士会事務局 〈 otachikukai@gmail.com 〉

## 第1回地区支援センター会議の報告

### 1. 会員名簿管理について

現在、東京社会福祉士会では、会員名簿管理にける新しいデータベースを構築しています。そのため、8月号と9月号の東京のニュースに、会員のみなさんの個人情報の取り扱いに関するご案内が掲載されます。各会員の承認手続きを得て、今年度の新会員を含む新しい名簿が10月頃に完成する予定です。ぜひ、8月号と9月号の東京のニュースにご注目いただき、在勤・在住などの変更は速やかに東京の事務局に報告していただくなど、会員名簿管理にご協力くださいますようお願いいたします。

## 2. ばあとなあ東京における7ブロック制について

ばあとなあ東京では、東京社会福祉士会のブロック割に準じた7ブロック制を導入することになりました。会員の増大により、当初のような会員1人ひとりへのきめ細かいサポートが難しくなってきたこと、広域な範囲のため後見活動に必要な地域との密接な連携を図ることがばあとなあ東京本体だけでは難しいことなどがあるようです。

「区部東」「区部西」「区部南」「区部北」「多摩南」「多摩北」「多摩西」の7ブロックのうち、大田区の会員の方は「区部南」となります。



近隣の早稲田大学戸山キャンパス。事務所移転に伴い、早稲田で開催される最後の地区支援センター会議(旧地区代表者会議)でした。

### おおた社会福祉士会の情報発信！

おおた社会福祉士会のウェブサイトを更新しました。定例会のお知らせなどの他、今後は会報などもウェブサイトに載せて情報発信するなど内容を充実させていく予定です。内外におおた社会福祉士会をアピールしていきます。ぜひご注目ください！

また、Facebookページでは、会長の田端やFacebookページ担当の吉

田が頻繁に情報発信をしています。アカウントをお持ちの方はぜひご利用ください。現在Facebookのアカウントをお持ちでない方も、アカウントは簡単に作れますのでこれを機に始めてみてはいかがでしょうか？

その他、Twitterや既存のfreemlを使用したメーリングサービス、オーちゃんネット(大田区区民活動情報サイト)も積極的に活用していきます。

「ホームページ」 <http://ota-amity.lovepop.jp/index.html>

「Facebookページ」 <https://www.facebook.com/otachikukai>

「Twitter」 <https://twitter.com/otachikukai>



Facebookのアカウントをお持ちの方は、ぜひ「いいね!」をお願いします。